

## 熊野町地域公共交通活性化協議会（令和4年度第4回会議）

日時：令和4年12月27日（火） 10:00～11:30

会場：熊野町役場3階会議室



### 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

#### 高井会長

- ・知恵を出し合い具体的な対策に進んでいければと考えている。本日の資料はそのためのたたき台となっている。新しい熊野町に向けて進めて行きたいと考えているので、活発な議論をお願いしたい。

### 3. 議事

#### （1）熊野町地域公共交通計画の策定について

##### 1）現況課題を踏まえた方針について

#### 事務局

《現況課題を踏まえた方針について資料に基づき説明。》

#### 柴田委員

- ・資料1の現況及び課題（P5）では課題として「魅力あるまちづくりの環境づくり」とあるが、基本的な方針と方向性（案）（P6）では「公共交通により地域が活性化する仕組みづくり」となっている。

#### 事務局

- ・同じ内容を意味している。言葉の不整合は改める。

#### 柴田委員

- ・まちづくりのことをしっかり考えていくということで理解した。

#### 地主委員

- ・交通事業は採算が取れないため、交通事業者への補助も含めて考える必要がある。また、買い物では帰りに荷物を持ち運ぶのがとても負担になっており、タクシー利用者へは玄関先まで荷物を運ぶなどの支援をしている。広島市では利用者に対しても金銭的な支援をしていたが熊野町ではそのような手当てがない。施策を検討しても実行しなければ意味がない。

#### 高井会長

- ・少しずつ改善していく必要がある。10年先に人口が減っていく中で、今よりも善くしていくため

に知恵を絞っていかねばならない。いただいたご意見も参考にしながら事務局でも考えていく。

### 友田委員

- ・課題への対応を実現できれば良いことだと思う。例えば、萩原に拠点ができると町内の潤滑もよくなると思う。しかし、これらが本当に実現性のあるものなのか、そのためにある程度の予算確保の可能性も鑑みて方向性を検討しなければ理想と現実が乖離する。

### 貞永委員

- ・将来的な予算は決まっていないが、公共交通は地域活性化のためにあるため、予算がないからやらないというわけではない。全ての人を満足させることはできないかもしれないが、限られた予算の中で可能な限りの取組を進めて行きたい。

### 高井会長

- ・住民の方々からの要望に応じて議会で議論を進め、予算を確保していくことになる。

### 北島委員

- ・利用者が満足に思っていない意見があるのは、裏を返せば行政や交通事業者への期待を持っていただけではないかと考える。利用者の中には、公共交通があって当たり前と思っている人も多く、その考え方を変えていくことは重要だと考えている。行政の支援により何とか維持できている公共交通では、利用者の満足度も高くなく、いいものにはなっていない。外出機会を創出する施策に絡めて、利用者も一体となって交通を作っていくという考え方を持ってもらえるようなプロセスを考えていく必要がある。

### 神田副会長

- ・熊野の公共交通を考えるにあたってのポイントがいくつかあると考える。
- ・1つ目は、想定される人口減少に抗うのか抗わないのかの方針を明確にすべきである。広島都市圏に目を向けると、安佐南区や安佐北区のように広島都心に行く際にバスから鉄道に乗り換える地域は熊野に似ている。計画をつくりにあたり、熊野は交通に便利だという戦略を持ってやっっていくかどうかを明確にし、熊野の競争力を上げることにより、それらの地域へのニーズを熊野に取り込める可能性がある。県内にはこのような地域はあまりなく、熊野ならではの特徴を活かすかどうかの意思をはっきりさせる必要がある。
- ・2つ目は、道路整備などのまちの形が変化している中で、町の発展のために交通をどう役立てていくかである。熊野は町がコンパクトで矢野安浦線を中心に町ができている。その矢野安浦線のバイパス整備が進められ、町の形が変わる途中にあり、今後の熊野をどうしていくかを本気で考えるタイミングにある。県内や中国地方を見渡しても人口が2万人を超える町は少なく、熊野にはポテンシャルがある。なんとなく5年サイクルで続けていく計画ではなく、長い目で見るときに地域に対する投資をどういう目線で考えるかを方針の中で明確にしてはどうか。例えば、今の熊野営業所の位置を中心として考えてよいのか、幹線路線をどこまで伸ばすのか、それを補えない地域に対してタクシーや広島市五日市でやっているような移動手段をどう組み合わせていくのかについてであ

る。それにより、若者にも高齢者にも暮らしやすい熊野をどう実現していくのかを考える必要がある。

#### 佛圓委員

- ・おでかけ号が路線バスの利用者を取っている状況にある。バスが不便な地域の高齢者の移動は大変な状況にあり、タクシー事業者でも努力している。広島方面からの需要については広電バスが担っている一方で、タクシー利用のニーズもあるが、人員確保が困難であったり、夜間の利用者が少ないため夜間の営業は難しい面もある。様々なニーズがある中で、交通事業者各社がニーズを取り合っている状況にある。例えば、バス事業者が広島・呉へのニーズを担い、タクシー事業者がおでかけ号を担い、貸切事業者が観光を担うなど、すみ分けや役割分担をしてはどうか。各事業者が揃っている会議であるため、そのような大枠を決められるような議論ができるとよい。

#### 事務局

- ・幹線路線はどこか、幹線路線でカバーできない地域に対してどうしていくかも関連する議論である。それらへの対応方法に対して、事業者をどうすみ分けていくかは重要な議論である。今後、議論させていただきたい。

## 2) 施策事例について

#### 事務局

《施策事例について資料に基づき説明。》

#### 高井会長

- ・全国各地で交通に困っている中で、頑張っている事例を示している。今までのような交通施策だけでなく、それに付加価値を付けて利用を促進することは重要である。そのようなことを目指して計画を作っていければと思う。
- ・資料を読んでいただき、後日でよいので意見をいただきたい。

## (2) 今後のスケジュールについて

#### 事務局

《今後のスケジュールについて資料に基づき説明。》

## 4. 閉会

#### 高井会長

- ・以上で議事は終了する。

## 熊野町地域交通共創事業実行委員会（第2回会議）

### 1. 開会

### 2. 議事

#### （1）共創モデル実証プロジェクトの進捗状況について

##### 事務局

《共創モデル実証プロジェクトの進捗状況について資料に基づき説明。》

##### 北島委員

- ・令和4年度の補正予算，令和5年度の予算においても共創事業の予算がついている。まちづくりや観光の視点も含めてご検討いただければと思う。

##### 時光委員

- ・阿戸線の運行本数を維持されたこと，朝日交通による安全な運転が行われていることについて大変感謝している。一方で住民からは萩原下でUターンすることに対して，郵便局や広銀，役場に行くことに対して不便に思っている意見をもらっている。そのような意見も踏まえて，検討していただきたい。

### 3. 閉会

##### 事務局

- ・以上で議事は終了する。